

令和2年
9月号

桂台地域ケアプラザ

発行日/令和2年9月1日

編集・発行/横浜市桂台地域ケアプラザ

発行責任者/石塚 淳

地域交流プログラム

お問い合わせ先

045-897-1111

コロナウイルスの影響で市民活動、地域活動についても自粛や制限がかかり元気がなくなっています。そこで、ポラ市民WEBでは、新型コロナウイルスの感染防止をしながらでも、やれることはあるよね! ということで、様々な工夫・アイデアを凝らして活動を続けている団体を紹介しています。

活動のヒントは5つありました。①電話やメールでの確認（孤立、孤独が心配な方への電話での声かけ、認知症の家族会が開催できないため、電話相談でつながり続ける等）②電子機器を利用したつながりづくり（Zoom等を利用したオンラインカフェの開催等）③様々なツールを利用した情報発信（郵送、動画配信、ネット掲示板等）④感染予防に配慮した居場所の開催（少人数、感染予防を徹底したお昼ごはん食堂）⑤ユニークな取り組み（クラウドファンディング、自宅のできる体操・DVDの配布等）です。

詳細はこちらからご覧ください。→ (<https://www.tvac.or.jp/corona/jireisyu/>)

さて、この地域の活動でも、上記されているような取り組みを見かけます。そこでこの地域交流プログラムでも、コロナ禍の中でも地域が元気になるような活動の取り組みを紹介したいと考えています。その第1弾として『湘南桂台みどりの会』の活動を取り上げました。ステイホームの号令がかかり、ガーデニングが流行っているということも耳にします。植物を育てることで癒され、優しい心も育まれる活動をぜひ、この地域に根付かせたいと思います。

【開催中止】令和2年9月30日に予定をしておりました、健康セミナー「手足のマヒ・しびれの話」を中止させて頂くことになりました。その他の講座は開催の予定です。

9月のおしらせ

下記の講座についてのお申し込みやお問い合わせは、桂台地域ケアプラザ（☎045-897-1111）にご連絡ください。

備えてあんしん終活講座

「夫婦で考える相続・介護の対策」

～相続に関する民法改正編～

相続でもめない損をしない!いま注目の『自筆遺言』について、新制度のメリットやデメリットをご講義頂きます。講座終了後、希望者には日程を変えて無料の個別相談にも応じます。

日時:令和2年10月16日(金) 14時～16時

場所:桂台地域ケアプラザ 2階 多目的ホール

定員:20名程度(定員次第×切)

講師:司法書士法人市川事務所

桂台健康講座

「難聴と認知症の話」

～聞こえの勉強会～

聞こえについてお悩みを抱えていませんか。認定聴覚士の方をお招きします。補聴器についてもご説明頂けます。

日時:令和2年10月21日(水) 14時～15時

場所:桂台地域ケアプラザ 2階 多目的ホール

定員:20名程度(定員次第×切)

講師:小野 徳規氏

(認定聴覚士 パナソニック補聴器(株))

高齢ドライバーの為の安全運転講話

「最近、運転するのが不安」「免許を更新するか悩む」「安全に運転を続けたい」と考えている方も多くいらっしゃるかと思います。安全運転のためのポイントを学んだり、適性検査などもあります。不安に思うご家族の参加もOKです。(ケアプラザに駐車場の用意はございませんのでご注意ください)

日時:令和2年10月23日(金) 10時～12時

場所:桂台地域ケアプラザ 2階 多目的ホール

定員:20名程度(10月16日×切)

講師:神奈川県警察交通部 交通心理分析係員

※感染症予防のため、講座にお越しの際はマスク着用及びスリッパの持参をお願いしております。また、受付では検温を実施しておりますので、ご協力ください。



新型コロナウイルスに負けるな!今できる活動を!『湘南桂台みどりの会』

『湘南桂台みどりの会』は、令和元年5月9日、“第9回横浜・人・まち・デザイン賞”、令和2年5月16日、“第31回「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰”と2年続けて名誉ある賞を受賞しました。9月から始まる「ぎやらりー・ぶちぶち」での展示に併せて、代表の南里 要さんに会の歩みと現在、これからの展望についてまとめていただきました。

『湘南桂台みどりの会』の歩み

「湘南桂台みどりの会」は、開発されてから40年、高齢化によって衰えが見えるようになってきた桂台の街を“瑞々しい街”に、新しい世代が入ってきたいと思えるような“魅力ある美しい街”に再生して次世代に引き継ぎたいという思いを実現するために、花と緑を通して活気のある美しい街を創ろうというコンセプトのもと、平成26年6月に設立されました。

設立年度の平成26年から平成30年度にかけて“横浜市地域緑のまちづくり事業”の助成金（総額約1億1千万円）により地域内の公共施設、民間施設、戸建て住宅の緑化を実施しました。緑化事業を展開する一方で、花と緑を介した地域交流活動にも力を入れてきました。

ガーデニング講座や寄せ植え教室などを5年間で約30回開催し、緑化への取り組みの啓発、理解を図るとともに地域の皆さまに新しい交流の場を提供しました。5年間に亘って進めてきたこの事業は平成31年3月31日をもって無事完了の運びとなり、当初の狙い通り40年の年月の中でいささか衰えの見てきたここ湘南桂台地区を花と緑で一杯の美しく瑞々しい街として再生することが出来ました。

平成31年4月からは新生「湘南桂台みどりの会」を立ち上げ、栄区の“みんなが主役のまちづくり協働推進事業”の助成金（20万円）と寄付金等による10万円、トータル30万円を運営資金として、“湘南桂台花と緑でいっぱい”のまちづくり事業”を展開しています。



主な緑化活動の場所

桂台保育園、桂台小学校、桂台中学校、桂台地域ケアプラザ、訪問の家「朋」「径」、スポーツ広場、桂台第2号雨水調整地、富士見通り、桂台通り、桂山公園、神奈川中央交通バス折り返し所、イトーヨーカドー桂台店、セブンイレブン桂台南1丁目店、桂台郵便局、その他戸建て住宅等（約90軒）



そして、令和2年度！さらにステップアップした計画を立て、これを積極的に展開していくことを考えていました。ところが、急速に我々を襲ってきた新型コロナウイルスによって、この計画を遂行することは難しい状況となりました。ただし、こういう状況下ではありますが、日常の維持管理活動に関しては、4月以降精力的に行い、すでに桂台通り、富士見通りの植樹の整備、イチヨウのヒコバエの処理を終え、各花壇の花の植え替えも終わりました。また桂台第2号雨水調整池南側の植栽整備、皇帝ダリアの増殖、手入れも終わることが出来ました。そして、「公田サッカークラブ」の子供たちとは何とか3密を避けながら、協働で花植えを実施することが出来ました。子供たち、保護者、コーチ合わせて多数が参加し、コロナで憂鬱な中、楽しくにぎやかな花植えとなりました。子供たちが花を植えた花壇は「公田サッカーガーデン」と命名し、プレートを立てています。今後「公田サッカークラブ」の方で主体的に管理していただくこととなりました。花育を意識した地域の子供たちとの協働の今後の良きお手本となってくれんことを期待したいと思っています。まだまだこのような状況が続くと思われる中で、これまで相携えて“花と緑を介した地域の新しい交流“の創出を目指してきた「訪問の家」と「湘南桂台みどりの会」が共同で何か地域住民との交流の場を提供できないか、あるいは花と緑を介して地域住民を少しでも元気づけられるような活動が出来ないか双方で知恵を出し合っ

て検討しているところです。

まずは9月～10月にかけて「桂台地域ケアプラザ」のギャラリーで先の“「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰”の受賞を記念した写真展を催し、訪れる人に見てもらうことを計画しています。

「湘南桂台みどりの会」はこの新型コロナウイルスが一日も早く収束することを祈りつつ、この状況下で、地域の人々に少しでも元気を届けるべく精いっぱい活動をしていきたいと思えます。また、「訪問の家」との連携をさらに深め、“花と緑と福祉の共生“そして”誰もが住みたくなる街“を目指して活動していきたいと思っておりますので、皆さまのご支援、ご協力をお願いします。

最後に皆さまへのお願いです。「湘南桂台みどりの会」では私どもの趣旨に賛同し、共に活動していただける仲間を募っています。一人一人のほんの少しのお手伝いで結構です。それを合わせれば大きな力となります。出来るだけ多くの仲間のご参加をお待ちしております。

市民の声

「みどりの会の皆様のおかげで街がとてもきれいです。お花は、見る人のところをやさしくしてくれるとても大切なものだと思います。普段の生活の中ではお花に触れる機会はなかなかないですが、子どもたちにサッカーガーデンにお花を植えるという良い体験をさせていただき、とてもうれしく思っています。桂山公園で遊んでいると、自分たちで植えたお花がきれいに咲いているのを見たりしていて微笑ましい光景を何度か目にしました。」

「5月の連休、家から恐る恐る外へ出て富士見通りを歩き出すと色とりどりの草花に迎えられました。今年の春ほど花に緑に癒され励まされた事はありません。私たちはいつもここにいますよ、と教えてくれたようでした。いつも手を入れてくださっているみどりの会の皆さん、本当にありがとうございます。この風景を大切に繋いで、また皆で笑いあいたいです。」

9月は世界アルツハイマー-月間です!

1994年「国際アルツハイマー病協会」(ADI)は、世界保健機関(WHO)と共同で毎年9月21日を「世界アルツハイマーデー」と制定し、この日を中心に認知症の啓発を実施しています。また、9月を「世界アルツハイマー-月間」と定め、各地で支援の色であるオレンジにライトアップがされるなど、様々な啓発活動が行われています。

認知症とは、2025年には65歳以上の約5人に1人がかかる病気であるという推計もあります。また、65歳未満で発症する若年性認知症もあります。認知症になっても住みよい地域を作るには、皆さんが正しい知識を持つことが大切です。

認知症は、誰もがかかる可能性のある脳の病気です。いろいろな原因で脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなったために様々な障害がおこり、生活するうえで支障が出ている状態を指します。症状や進行の程度については、人によって大きく異なります。

認知症になった時、本人や家族は戸惑うことが多くあります。一人や家族内で抱え込むのではなく、専門家のアドバイスや地域のサポートを受けましょう。NFの会や桂台カフェなど、認知症の方の家族会もあります。

認知症になった時の相談先や制度などがまとめられた『オレンジガイド』というパンフレットがあります。

ご希望の方は桂台地域ケアプラザにご連絡下さい。



『親が認知症かもと思ったら…』というパンフレットを配布しています。

- ♥ 「今までとはちがう」と感じる事があたら
- ♥ 認知症や介護に悩んだら
- ♥ 困ったときの対応について

配布先：栄区内地域ケアプラザ、
栄区役所 高齢・障害支援課
(本館2階23番)



左記のQRコードを読み取ると、『親が認知症かもと思ったら』の閲覧・ダウンロードができます。

お困りごとを抱えたり、不安に感じているご本人様、心配に感じている家族や周囲の方がいらっしゃるいましたら、ぜひお住まいの地区を担当する地域包括支援センターにご相談ください。
(桂台地域ケアプラザ 地域包括支援センター ☎045-897-1111)